日本心臓病学会
和文誌の休刊に際して

日本心臓病学会理事長　鄭 忠和

日本心臓病学会の和文誌が本号をもって休刊することを会員の皆様にお伝えすることは，長年本誌の発展に尽力されてきたFounderの坂本二哉先生の心境を推察しますと，大変複雑な気持ちで一杯です.

日本心臓病学会の和文誌の歴史は，ご存じのように日本心臓病学会の創設者のお一人である坂本二哉先生が，初代編集長として臨床心音図研究会の機関紙であるCardiovascular Sound Bullletin（CVSB：臨床心音図）を発刊された1971年に遡ります．以来，坂本先生は24年間日本心臓病学会誌の編集長としてJC原稿の実務のほとんどを吉川純一先生や羽田勝征先生など限られた方の協力を得ながら孤軍奮闘して出版されてこられました．1976年にはJournal of Cardiography，1987年にはJournal of Cardiology（JC）として，臨床心臓病全般を網羅する学術誌として日本心臓病学会の機関誌として確立されました.

2012年，日本心臓病学会の節目となる第60回学術集会に合わせて発刊された坂本先生の編集後記集「JC語録」をお読みいただければ，いかにしてJCの和文誌が学会の発展と共に充実してきたか，そして坂本編集長の苦闘の歴史を理解することができるでしょう.

2000年に入るとパソコンやインターネットの普及は目覚ましく，情報は瞬く間に全世界へ伝わる時代となり，グローバリゼーションは避けられない時代となりした．そのような中，2006年にJC編集長に指名された私は，JCを英文誌，英文症例誌（JC Cases），和文誌を日本心臓病学会誌として，三つの学会誌を維持することに務めたのです．理事長に指名されるや日本心臓病学会出版編集長を井上 博先生，JC編集長を平山篤志先生，JC Cases編集長を伊藤 浩先生にお願いして，これら3名の方々のご尽力で，出版・編集業務は急速な発展を遂げてまいりました．JCおよびJC Casesの投稿英文論文数は昨年800編を超えるまでになり，採択率は30～40%，インパクト・ファクターは本年6月には2.0を超えることが予想されています．これは画期的な躍進であり，長年のJCの歴史の積み重ねの賜物です．今後多くの若い会員の投稿が期待されます.

さて，学会の予算は限られており，三つの雑誌を維持することは財務上困難となっています．JC，JC Casesの投稿数の増加をみると，採択数を上げることや，図表のカラー化のための予算を確保する必要があります．一方，和文誌は投稿論文数が大幅に減少していること，これまで和

文誌に掲載していた学会ニュースや学術集会プログラムなどの案内はホームページの充実により，会員にはご迷惑をかけないように致すつもりです.

なお，和文誌の休刊につきましては，坂本二哉JC創立編集長が本誌の軌跡を寄稿して下さり，井上 博出版員長からは休刊に至る背景のご説明をいただいております. 是非ご一読いただければ幸いです．会員の皆様にはこれまで長い間, 和文誌の出版にご支援をいただき深く感謝致します. 日本心臓病学会が今後益々臨床・教育・研究に貢献できますように，会員の皆様のご支援を今後ともどうぞ宜しくお願い致します.